

なら

植防ニュース

(一社) 奈良県植物防疫協会

臨時総会の開催

3月26日に、奈良県農業研究開発センター内交流・サロン棟において臨時総会を開催した。第1号議案：役員を選任及び役員報酬について審議し、承認された。

故田中宇兵衛理事に代わり、理事に阿古和彦奈良県農薬商業組合理事長が選任された。

澤田兼次監事に代わり、監事に阿古哲史奈良県農薬卸商組合理事長が選任された。現在の役員は下記の通りとなった(交代※)。

役 職	氏 名 (所属機関名)
代表理事 会 長	尾上喜信 (奈良県農業協同組合中央会)
副会長	長田聡 (奈良県農業協同組合) 西本弘 (奈良県毒物劇物取扱者協会)
業務執行 理 事	田中良宏 (奈良県農業水産振興課) 和田正光 (奈良県植物防疫協会)
理 事	阿古和彦 (奈良県農薬商業組合) ※ 土井正彦 (奈良県農業研究開発センター) 西野精二 (奈良県病害虫防除所) 松原久展 (奈良県農業機械公正取引協議会)
監 事	阿古哲史 (奈良県農薬卸商組合) ※ 大東良史 (奈良県農業共済組合)

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒633-0046 桜井市池之内130-1
奈良県農業研究開発センター内

TEL:0744(47)4861

FAX:0744(47)4862(専用)

目 次

◎(一社) 奈良県植物防疫協会 臨時総会の開催	1
◎最近の病害虫の発生状況	2, 3
◎登録失効になった農薬 (FAMICの失効農薬情報より)	4

オンコル粒剤5

登録変更(作物削除)について

今般、食品安全委員会において、ベンフラカルブについて食品健康影響評価がなされました。この評価に基づき、メーカー側の自主的な判断として、ベンフラカルブを有効成分とするオンコル粒剤5の一部の登録作物を削除する登録変更が行われました。

このため、登録から削除された作物(ピーマン・モロヘイヤ)では使用しないよう、農薬メーカーより注意喚起が行われています。

商品名：オンコル粒剤5(第16575号)

登録変更申請：令和2年1月30日付

変更内容：ピーマン・モロヘイヤを削除

※詳細はOATアグリオ(株)インフォメーションをご覧ください。<https://www.oat-agrio.co.jp/index2.html>

令和元年度に奈良県内で問題になった病害虫

奈良県病害虫防除所 井村岳男（虫害）・平山喜彦（病害）

最近、県内では各種農薬に抵抗性が発達した病害虫が問題化している。抵抗性発達は、同じ系統の農薬を頻繁に使用することで抵抗性遺伝子を持った個体の比率が増加し、防除効果が低下する現象である。抵抗性が発達しやすい条件として、長期作型や連作を繰り返すこと、農薬ばかりに頼った防除を行うこと、同じ農薬を繰り返し使用すること、散布むらが大きい農薬散布を行うことが挙げられる。そのため、輪作や休耕で病害虫をリセットしたり、農薬に頼らない防除やローテーション散布を行うこと、散布むらが小さい効率的な防除を心がけることが大切である。以下に、今年度問題化した病害虫とその対策を概説する。

【虫害】

ナミハダニやアブラムシ類、アザミウマ類の抵抗性問題とその対策は既に多くの解説があるので省略する。これとは別に、最近、チョウ目害虫の抵抗性が顕在化している。ネギやアブラナ科作物ではシロイチモジヨトウの複合抵抗性系統が県内で問題化している。県内で多用されてきたフルベンジアミド、クロラントラニ

リプロールのほか、エマメクチン安息香酸塩やピリダリルにも感受性が低下しているが、クロルフェナピル、インドキサカルブ、シアントラニリプロール、スピノサド、フルキサメタミドの効果が高い。また、キュウリのウリノメイガについてもフルベンジアミドとクロラントラニリプロールの効果が低い系統が発生し、薬剤の付着しにくい新芽部への加害が顕在化した。他の剤は概ね効果が高かった。薬剤選択に注意を払いつつ、ローテーション防除を心がけたい。

この他、抵抗性害虫ではないが、ダイコンサルハムシの被害が一昨年秋より増加している。ハクサイで多発した場合は結球内部に潜り込んだ虫には登録剤であっても効果が低い場合があり、ネオニコチノイド剤やクロルフェナピルでは抑えきれないが、ピレスロイド剤やネライストキシシン剤、フィプロニル、フルキサメタミドの効果は高いと考えられる。昨年の多発地では越冬量が増加しており、春の被害が懸念されるので、防除薬剤の見直しについてご一考願いたい。

【病害】

水稲では、いもち病が中山間の一部圃場で多発が見られたが、県全体での発生は低くなっている。一方で、ばか苗病の発生が平坦地域でも目立つようになっている。本病は種子伝染するため、前年にばか苗病が発生したほ場からは自家採種を避け、種子消毒を徹底することが重要となる。種子消毒剤としてよく用いられるDMI剤は、薬液の温度が低いと防除効果が低下する事例があることから、薬液を10℃以上に保つようにしたい。また他県では同系統の一部薬剤に対して感受性が低下している菌が確認されており、今後本県でも注意が必要である。

トマトでは、平坦地域の半促成栽培で葉かび病の多発ほ場が見られた。本県では抵抗性品種の導入が進んでいたが、昨年、葉かび病抵抗性遺伝子 Cf-9 を持つ品種で発病が確認された。また、主要薬剤である QoI 剤のアゾキシストロビン、SDHI 剤のボスカリド、ペンチオピラドでは高

頻度で薬剤耐性菌が発生している。そのため前作の発病残さの処分や支柱などの資材の消毒を徹底して感染源を断ち、保護殺菌剤による予防散布に重点を置く必要がある。また、中山間地域の夏秋栽培では、すすかび病が問題となっており、葉かび病と同様の対策が求められる。

イチゴでは、以前、炭疽病が最も注意すべき病害であったが、育苗期の保護殺菌剤による防除により減少している。一方で、最近はどうんこ病や萎黄病の発生が増加傾向である。特に土壌病害である萎黄病は一度発生すると翌年にも発生することが多く、育苗ポットの更新や無病の培養土を使用し、本菌の再汚染を防ぐようにしたい。

その他、例年より発生が多かった病害として、ナスうどんこ病、キク白さび病、黒斑病などが挙げられる。暖冬で菌密度が例年より高まっており、発生が早まることが懸念されるため、防除対策についても早め実施していく必要がある。

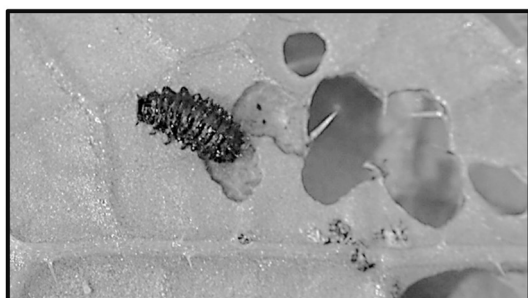


図1 ダイコンサルハムシ幼虫

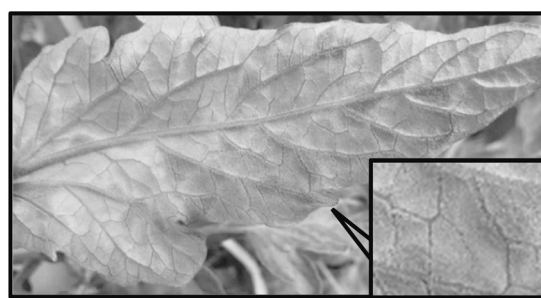


図2 トマトすすかび病（葉裏の病斑）

登録農業失効情報 (2019.12.1~2020.2.29) 農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の登録農業失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名 (略称)	失効日 月/日/年
殺虫剤				
13932	M P P 粒剤	バイジット粒剤	バィル	1/14/20
20607	スピノサド水和剤	カリプスター	グウガロ	2/27/20
21913	ピリミホスメチル乳剤	S T アクテリック乳剤	住友化学	1/15/20
21914	ピリミホスメチル乳剤	日農アクテリック乳剤	日本農業	12/23/19
22665	M P P 乳剤	ホクサンバイジット乳剤	ホクサ	2/4/20
23358	B P M C 乳剤	協友バッサ乳剤	協友アグリ	12/11/19
殺虫殺菌剤				
19391	ブプロフェジン・イソプロチオラン・フラマトピル粒剤	フジワンアブロードリンバー粒剤	日本農業	12/23/19
20197	イミダクロプリド・トリシクラゾール粒剤	D A S ビームアドマイヤー粒剤	グウガロ	2/27/20
20532	エトフェンブロックス・フェノキサニル・フルトラニル粉剤	アチーブモンカットトレボン F 粉剤 D L	日本農業	12/23/19
20544	エトフェンブロックス・フェノキサニル粉剤	アチーブトレボン粉剤 D L	日本農業	12/23/19
20663	ブプロフェジン・フェノキサニル・フルトラニル粉剤	アチーブアブロードモンカット F 粉剤 D L	日本農業	12/23/19
21024	ジノテフラン・フェノキサニル粉剤	アチーブスタークル粉剤 D L	日本農業	12/23/19
21493	イミダクロプリド・トリシクラゾール粒剤	D A S パワーリード箱粒剤	グウガロ	2/27/20
21670	エチプロール・シラフルオフェン・トリシクラゾール粉剤	D A S ビームキラップジョーカー粉剤 D L	グウガロ	2/27/20
21887	ジノテフラン・メトミノストロピン粒剤	バイエルイモチエーススタークル粒剤	バィル	1/30/20
22110	クロチアニジン・ピロキロン粒剤	コラトップダントツ 1 キロ粒剤	協友アグリ	12/11/19
22444	カルタップ・ブプロフェジン・フルトラニル粒剤	アブロードバダンモンカット粒剤	日本農業	12/23/19
22545	ジノテフラン・チアジニル粒剤	日農アブライスタークル粒剤	日本農業	12/23/19
22657	クロチアニジン・メトキシフェノジド・トリシクラゾール・ バリダマイシン・フェリムゾン粉剤	キクゾー粉剤 D L	協友アグリ	12/11/19
22994	クロラントラニプロール・ジノテフラン・チアジニル粒剤	ブイグットフェルテラスタークル L 粒剤	日本農業	12/23/19
殺菌剤				
16891	イミノクタジン酢酸塩・トルクロホスメチル水和剤	リゾレックスベフラン水和剤	ホクサ	2/4/20
19245	フサライド・フルトラニル粉剤	モンラブ F 粉剤 D L	日本農業	12/23/19
20529	フェノキサニル水和剤	アチーブフロアブル	日本農業	12/23/19
20531	フェノキサニル・フルトラニル粉剤	アチーブモンカット F 粉剤 D L	日本農業	12/23/19
20660	フェノキサニル粒剤	アチーブ粒剤 7	日本農業	12/23/19
21561	フェンアミドン水和剤	ビトリーンフロアブル	バィル	1/30/20
21562	フェンアミドン・ホセチル水和剤	レイデン水和剤	バィル	1/30/20
22177	アゾキシストロピン・フェノキサニル粉剤	アミスターアチーブ粉剤 D L	日本農業	12/23/19
除草剤				
17906	ベンディメタリン・リニユロン乳剤	デュボンカイタック乳剤	TKI	12/17/19
18415	ベンディメタリン・リニユロン粉粒剤	デュボン カイタック細粒剤 F	TKI	12/17/19
18608	ベンチオカーブ・ベンディメタリン・リニユロン乳剤	デュボンクリアターン乳剤	TKI	12/17/19
18861	ベンチオカーブ・ベンディメタリン・リニユロン粉粒剤	デュボンクリアターン細粒剤 F	TKI	12/17/19
19718	ジメテナミド・リニユロン乳剤	デュボンエコトップ乳剤	TKI	12/17/19
21455	ジメテナミド・リニユロン粒剤	デュボンエコトップ粒剤	TKI	12/17/19
22049	アラクロール・リニユロン粒剤	デュボンラクサー粒剤	TKI	12/17/19
22298	D C M U 水和剤	サンケイ カーメックス D	琉球産経	1/8/20
22589	クミルロン・ベンスルフロメチル・ペントキサゾン水和剤	ドウジガードフロアブル	丸紅	12/18/19
22592	クミルロン・ベンスルフロメチル・ペントキサゾン水和剤	ドウジガード L フロアブル	丸紅	12/18/19
22859	クミルロン・ベンスルフロメチル・ペントキサゾン粒剤	ドウジガード 1 キロ粒剤 5 1	丸紅	12/18/19
22862	クミルロン・ベンスルフロメチル・ペントキサゾン粒剤	ドウジガード 1 キロ粒剤 7 5	丸紅	12/18/19
23143	ピリミルスファン・メフェナセット剤	ムソウジャンボ	日本農業	12/23/19
23920	エトフメセート・デスメディファム・フェンメディファム乳剤	ベタナールエキスパート乳剤	バィル	2/6/20
その他剤				
9152	クマリン系粒剤	固型チューモア 1 号	タニサ	12/17/19